

学校じまん 中学校編 第5回 鎌倉台中学校

さわやかな秋の青空が広がる10月21日、感染予防のため最少人員でとの依頼を受け、編集委員など3名が鎌倉台中学校を訪問し、戸田校長先生に学校じまんを伺いました。



地域の歴史を刻んだ校碑

◆学校の成り立ち

鎌倉台中学区は1986(昭和61)年以降宅地開発が進み、たくさんあったぶどう畑などが住宅地へと変化していきました。1990(平成2)年に大清水小学校、1993(平成5)年に鎌倉台中学校が開校しました。1学区に1小学校・1中学校体制なので、大部分の生徒は9年間同じ仲間と過ごします。校門を入るとすぐ右手に大きな石碑があり、近くを通る鎌倉街道から校名を定めた由縁が綴られています。また、標高30数mと高台に学校が位置することから「鎌倉台」という校名になりました。第19期生

が作った校訓「大志・友誼・協調」が生徒会活動や学習にしっかりと息づいて大切にされています。

◆コロナ禍の学校生活

現在生徒数は490名で、職員は39名です。今年度はコロナ禍で休校になり、行事予定が変わり、また学習方法も、ほぼ家庭学習と多くの試練の日々を自宅で過ごしました。徐々に感染の状況が落ち着き、授業や部活動が再開され、行事も工夫を凝らした方法で実施されるようになりました。第5期、6期の卒業生がデザインしたステンドグラスが飾られたランチルームでも、通常のランチタイムが楽しめるようになりました。



ランチルームのステンドグラス



生徒会が中心となって制作したキャップアート

◆キャップアートで被災地にエール

そんな中、7月の豪雨災害で被災した熊本県の人吉第一中学校の生徒を励まそうと、生徒会発案でペットボトルキャップを活用した虹のパネルを制作しました。11色1,728個のキャップを使用し、虹やひまわり、梅の花をデザインし、クラスごとに制作したものを、全体で一つのアートに仕上げた作品です。9月25日、写真と応援メッセージをまとめた冊子を熊本県に送りました。

◆鎌中ソーラン節

毎年学区住民が一体となって楽しむ「ふれあい納涼盆踊り」は残念ながら中止となり、鎌中ソーラン節の披露を行うことはできませんでした。また、体育大会でのお披露目も叶いませんでした。名物の「鎌中ソーラン節」は来年度のお楽しみとなりました。

◆SDGs(国連の持続可能な開発目標)への取り組み

総合的な学習の一つとして1・2年生を中心にSDGsを柱とした取り組みが進んでいます。持続可能な未来を創るためには幅広い視野が必要と学んでいます。昨年度は、福祉に関する学習としてSDGsのゴールの一つである「誰もが住み続けられる街づくり」の視点で考えを深めることができました。2年生での体験学習、3年生での修学旅行(分散学習)につながっていきます。



ふれあいコーナー

園芸部が中心になって育てていたヘチマを12個収穫できました!2021年も区民プラザ「光の庭」の植物たちを、ぜひお楽しみください。



億年の
なかの今生
実南天
森澄雄

「難を転じて福となす」という願いを込め、南天の俳句を紹介します。